

みなさんお元気ですか。

2017年7月の道場での様子をお便りします。ご覧くださいませ。



7月22日、JICA 所長さん宅で、シニア海外ボランティア (SV) のみなさんと一緒に食事会があった。現在任地にいる SV は、6名である。その中の一人である SV さんの話を聞いた。その人は、ウルグアイやパラグアイなどの南米で約10年間滞在していた経験のある方だった。その方に、南米の国の人とニカラグア人とで、国民性に違いはありますか、と質問した。その人曰く、ラテンアメリカ人はみな一緒だ。信頼できないし、よくうそつくし。だから、ラテンアメリカ人の言う事は、あくまでも希望を言っているだけだと思ったほうが良い。本気にしてはいけない。この説明で、今まで持っていたわだかまりはスーとどこかへ消えていってしまった。私は、任地に就任してからもう2年近くになるが、必ず稽古に来ます、と言って来ない生徒の本当の意味がやっと分かってきた。こちらでは、言ったことを必ず実行する人はほとんどいない。



だから、何も期待しないほうが良いと前述の SV さんは言う。就任した当時の私は、要請に応えられるように活動したいと思った。また、道場の生徒とは、共同で事を成し遂げたと思って、みんなに声をかけた。しかし、殆んどの方は、言う事は言うが、実行する人は、いなかった。結局、自分でやるしかなかった。でもやっと最近になって分かった。こちらの人の言う、Yes、は、ただの返事。本人の前では No、とは言わない。また、私のやったことに、文句も言わない。しかし、感謝もしないことも。こちらに滞在して長い別の日本人も言っていたが、こちらの人は、予定も計画も立てない。何もしないで、今を楽しんでいるだけ。また、ある別の日本人は、こちらの人が9時に来ると言っても、実際に来るのは、10時近く。つまり10時5分前までは、まだ9時だと思っている感覚だと。ああ納得。



7月22日、朝稽古に道場に行ったら、Susan Kinne 先生が公園内のベンチに座って、私たちの来るのを待っていた。久しぶりに会ったので、どうしたのですか、と尋ねたら、ニカラグアの合気道道場を見て周って、招待状の名簿を作成しているとのことだった。実は、Susan 先生は、8月15日に、在ニカラグア日本国大使館から「勲章：旭日双光章」を授与されることとなった。その式に招待したい旧生徒たちの所在を確認しているとのことだった。Susan 先生は、アメリカ人だが、1989年にニカラグアに合気道を普及された最初の人だ。実は、左写真の右側にいる Tom Cano も Susan 先生から合気道を習ったらしい。彼は、しばらく稽古していなかったが、今年の3月ごろから朝稽古に参加している。今日は、コロンビア出身の Jorge と Tom と、そして Susan 先生と一緒に杖の形稽古をした。Susan 先生は、杖の形稽古をしたことがないとのことだったが、杖捌きはよかった。



7月29日、私の住んでいるマナグア市からバスで3時間半ほど北東に行ったところにある El Sauce (エル サウセ) という町に行った。JICA 青年海外協力隊の同期がこの町で活動していて、日本文化紹介イベントをするので、合気道を地元の人たちに見せてほしいとのことで、やってきた。この町にくる前日は、別の町レオンで、私は一泊し、そして、当日知人の車でこの町に来た。来る途中の田園風景や民家などを見て、こんな何もない田舎で同期青年隊員(看護師)はよくやっているなあと感心した。しかし、街の中央に来たら、綺麗な教会があり、小さな店があり、人通りもあり、すこしホッとしました。今回のイベントは、隊員の個人的な活動だったので、演武に参加した生徒には交通費もでなかった。しかし、3人の生徒は自宅から4時間ほどかかるこの町までよく来てくれた。そして、演武を見に来てくれた近所の人々に感動を与えてくれたと思う。この町の人々は、生まれて初めて合気道を見たと思う。

